

## 若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)

### バイオインフォマティクスとシステムズバイオロジーの国際連携教育研究プログラム ワークショップ参加レポート

Name : 鳥山昌幸

Title : IBSB2012 参加報告

#### Report:

このたびITP の支援をうけて、ボストン大学で開催されたInternational Workshop on Bioinformatics and Systems Biology (IBSB) に参加する機会を得ることができた。ワークショップは2012年7月23日から25日の3日間にかけて行われ、翌26日には各faculty の教員による研究室の紹介も実施された。また、バスでの市内ツアーやボートクルージング等といったレクリエーションを通して参加者間の活発な交流も図られ、非常にメリハリのある4日間を過ごすことができた。

私は今回がIBSB 初参加であるが、どの発表もよく練られておりヴィジュアルイメージを通して簡潔にストーリーを伝えようとする姿勢が伝わってきた(逆に細かい数式は徹底して避けられていた)。また、質疑応答や各セッション間の休憩時間には活発な議論・意見交換が行われ、コミュニティの盛り上がりを感じられた。また、ある程度クローズドな範囲から参加者が集まっていることも手伝ってか参加者同士の交流が通常の国際学会などに比べて比較的親密であるようにも感じられた。こういったフランクな雰囲気での発表は特にこれから国際学会等で発表を行っていく学生にとって非常に良い機会であるように思う。また、Bioinformatics / Systems Biology のワークショップ初参加である私にとっても非常に有意義な時間となり、コミュニティの雰囲気を肌で感じる事ができた。

私自身は専門であるデータ解析関連のトピック、具体的には機械学習のグラフベース半教師付き学習に関する発表を口頭とポスターで行った。内容はワークショップの中心的な話題からはかなり遠いものの何人かの方は質問をしてくださった。また、セッション後には以前京大に訪問されたLuis Carvalho 博士からもご意見を頂くことができ、新たな視点をすることもできた。個人的に話をした方々の中には機械学習の手法に非常に興味を持っている人もいた反面、機械学習手法や概念(教師あり/なし等)に関する認知度はそれほど高くないとも感じた。ここで感じた経験を、今後より多くの人に機械学習アプローチに興味を持ってもらえるように活かすことで両分野の発展に貢献できれば良いかと思う。

最後に、ご多忙の中このような貴重な機会のオーガナイズに尽力された各facultyのスタッフの皆様やご支援を頂いたITP には感謝と御礼を申し上げます。



(左) ボストン大学 (右) 発表風景